

糖尿病の現状と当院の取り組み

内科 診療部長 兼 救急室 診療部長
井野口 卓

徳島県の糖尿病の現状

徳島県では、平成5年から16年にかけて、12年連続で「糖尿病死亡率全国ワースト1位」が続いていました。県は「糖尿病緊急事態宣言」を行い、注意を喚起するとともに、県民総ぐるみによる健康づくりに関する取り組みを進めました。

平成19年には糖尿病死亡率は全国ワースト7位と改善傾向がみられましたが、平成20年から25年にかけて、またもや連続で全国ワースト1位。

その後、平成26年から平成28年にかけてやや改善しましたが、平成29年には再びワースト1位へ。平成30年はワースト2位、令和元年には再び全国ワースト1位となり、糖尿病死亡率の高い状態が続いています。

その原因として、以前は運動不足を指摘されてきました。しかし、最近の統計では運動不足はそれほどもなく、野菜摂取量が少ないというデータが散見されます。つまり、炭水化物中心の食事内容が主要因であると考えられてきています。

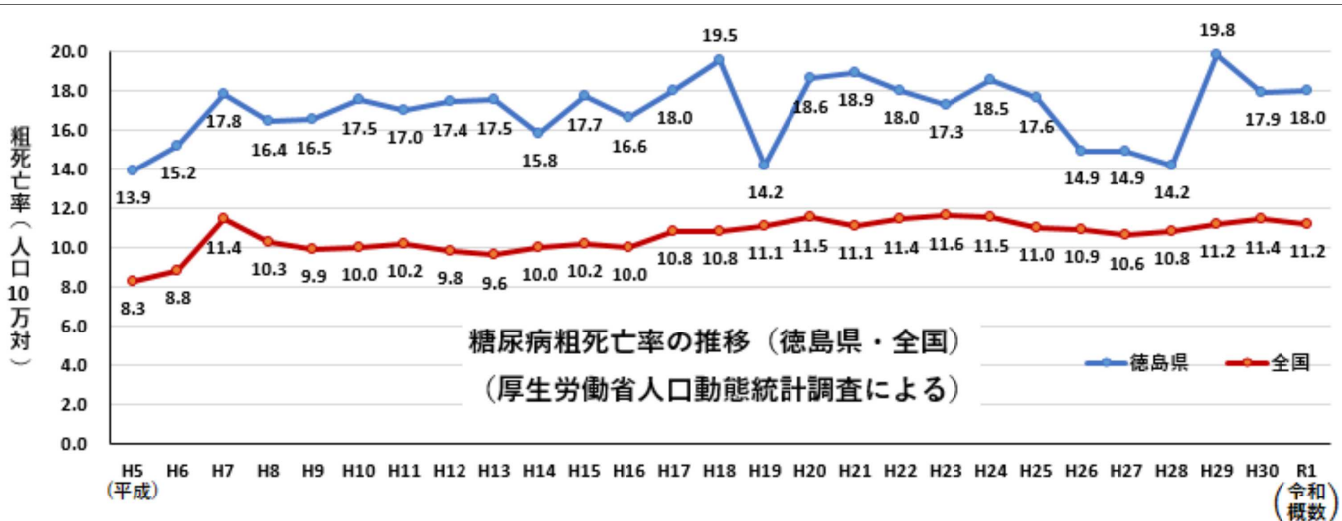
取り扱っている主な疾患

- 糖尿病 (1型・2型)
- 脂質異常症
- 高尿酸血症・痛風
- 視床下部・下垂体疾患：先端巨大症・尿崩症等
- 甲状腺疾患：バセドウ病・橋本病等
- 副甲状腺疾患
- 副腎疾患：クッシング症候群・褐色細胞腫・原発性アルドステロン症等
- その他の内分泌疾患

糖尿病・代謝内科は常勤医師1名、外来診療を週2回行っております。

外来患者数はカルテベースで年間約450名、入院患者数は年間約100名です（うち糖尿病教育入院は45名）。

糖尿病紹介患者数は2018年に60名、2019年に63名でした。



治療実績

外来 (年間)		入院 (年間)	
症例	症例数	症例	症例数
糖尿病	395	糖尿病	70
甲状腺疾患	150	甲状腺疾患	5
下垂体疾患	4	下垂体疾患	2
副腎疾患	4	副腎疾患	2

当院の状況

■糖尿病に関して

薬物療法の進歩が著しい昨今、適切な薬物使用のためには、正確な病状把握が重要です。

また、患者教育・疾患理解を食事・運動・薬物療法に先立つ重要な治療と考えています。

このため、初診の患者さんに対しては、インスリン^{*}分泌能検査 (HOMA-R、CPI、尿中Cペプチドなど) を必ず行います。

並行して管理栄養士による栄養指導、各合併症の病期判定のための検査を行っています。

^{*}インスリン…食後に上がった血糖値を下げて、一定値に保つ働きを担うホルモン

■甲状腺疾患 (バセドウ病、橋本病等) に関して

診断基準に則り、エコー・血液検査等で総合的に診断を行っております。

バセドウ病 (動悸、体重減少、指の震え、甲状腺の腫れ、目がとび出す、手足が動かなくなる等の症状が出る) に関しては、抗甲状腺薬、ヨード治療、β遮断薬等で治療を行います。

必要時には手術療法・アイソトープ治療に変更してまいります。

■副腎疾患 (原発性アルドステロン症、クッシング症候群等) に関して

血液検査・尿検査・画像検査・各種負荷試験にて確定診断・局在診断 (病名を付けるのではなく、神経系

のどこに問題があるのかを明らかにすること) を行います。その結果を見て、手術治療・薬物療法を選択してまいります。

糖尿病に関する啓蒙活動

徳島の現状を踏まえて、当院では糖尿病の教育に力を入れています。

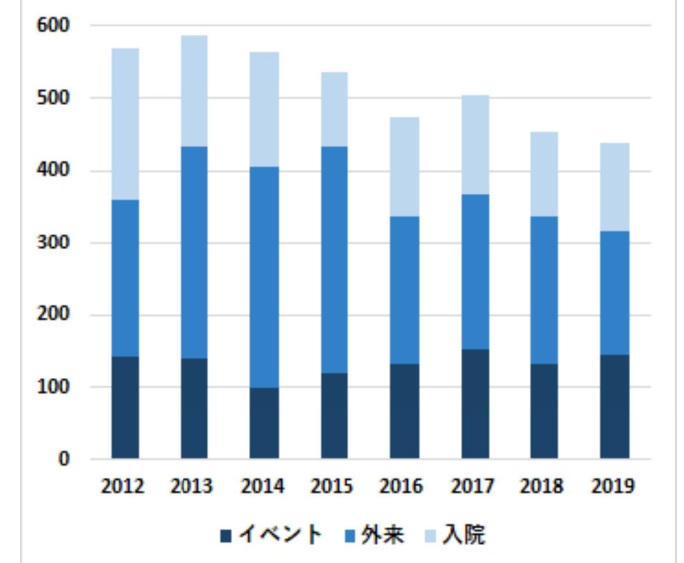
毎年50~60人程度の教育入院 (7~14日間程度) を実施し、糖尿病教室 (毎週火曜日・14時~15時) を開催しています。

これは各科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師が2コマずつ、糖尿病に関する講義・実技指導を行うというものです。

ボランティア活動であり、どなたでも参加できるようになっています (現在は新型コロナウイルス感染症対策のため中止中)。年間参加者は300~400人に及びます。

また、11月14日の世界糖尿病デーに合わせて、院内イベント (参加者約100~150名程度) も開催されております。2020年からは、糖尿病腎症透析予防指導 (透析予防外来) も開始されました。こちらは毎週金曜日に行われています。

糖尿病教室の実績 (患者数)



当院では病状把握、一通りの教育の後、各患者さんに最も適した治療を行うよう努力しています。糖尿病にお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。